

碑文

明治の日清・日露の戦争から太平洋戦争の終結に至るまで、数多くの人々が出征しました。出征兵士の中には、父母を思い妻や子を案じ、再び郷里に帰れることを夢見ながらも、護国の礎となられた多くの方々がおられました。また、満蒙開拓団として送り出され、異郷の地で一命をおとされた開拓者もおられました。痛恨の極みでありま
す。

昭和二十年八月終戦の日本は、平和憲法の下、民主的政治と経済の発展により、平和で恵まれた社会を築いて参りました。満ち足りた生活や時の流れは、過去の戦争の過ちと悲惨さ、そして幾多の尊い犠牲者がいた歴史が風化しつつありますが、決して忘れてはなりません。終戦六十周年を迎えるにあたり、尊い身命を護国のために捧げた御霊よ永遠に安らかなれと祈念するとともに、これを教訓として、再び悲惨な戦争をしてはならないという誓いを新たにいたします。

地域の皆様様の暖かいご寄進をいただき、恒久平和への切なる願いを込め、ここに平和祈念碑を建立するものであります。

平成十七年八月十五日

神林平和祈念碑建立実行委員会